



ウイトラレポート 2010年3月号

「中国の移動体通信事情」

はじめに

今月は先月のインドに引き続いて中国市場を取り上げる。先月と同様に中国経済全体を概観したうえで移動体市場を見る。中国は世界最大の加入者数を持ち、市場規模もインドよりはるかに大きい。中国の移動体通信市場における最大の注目点はなんといっても昨年始まった3G市場である。

特に、中国独自方式であるTD-SCDMAを割り当てられたChina Mobileの動きが注目である。China Mobileは、最初は政府から押し付けられたという印象を持っていたようだが、腹を決めてTD-SCDMAの事業化に乗り出し、将来のLTEへの移行を含めて極めて戦略的に取り組んでいる。この他China UnicomはWCDMAを開始、China TelecomはCDMA2000を開始しており、中国のインフラ市場は3G特需で沸いている。

中国は市場規模が大きく、3Gに対しても大きな影響力があるものと思われる。またTD-SCDMAは中国独自方式ではあるがUMTSファミリーの一部であり欧米企業も本腰を入れ始めている。今回はこのあたりの最近の状況を報告する。